

ホスピス・緩和ケアフォーラム 2017 in 青森

今回で 30 回目を迎えたホスピス・緩和ケアフォーラムが、青森慈恵会病院の協力を得て開催されました。特別講演では、東京から桜町病院の大井裕子先生をお迎えし、現代ホスピスの母といわれるシシリーソングラス氏の紹介を通してホスピスケアの真髓が語られ、大井先生がそれを実際に桜町病院で実践されている内容を具体的な事例を交えて講演いただきました。また、地元青森からはホスピス病棟、在宅医療、老人施設からそれぞれを代表するパネリストの先生方による事例紹介がなされ、その後は、フロアからの質疑応答が活発にされました。



小枝淳一先生

今回の特別講演、シンポジウムを通して、ホスピスケアとは、患者さん、ご家族が困っておられることや、細かい要望などを丁寧に一つずつ解決していくことで



あり、また難しいと言われるスピリチュアルケアも、実際には毎日のケアの積み重ねであるということが伝えられました。このように、実際に様々な施設で行われているホスピスケアの具体的な内容が紹介されたことは、今回のフォーラムに参加していただいた市民の方々への心強いメッセージとして届き、地域の方々に安心感と信頼を与える良い機会となりました。



- 日時：2017年7月30日(日) 13時～16時30分
- 場所：リンクステーションホール青森
- 特別講演「シシリーソングラスから受け継ぐホスピスの心 ～ホスピスから地域へ～」
聖ヨハネ会 桜町病院 ホスピス医 大井裕子氏
- パネルディスカッション「青森に広がるホスピスケア」
座長 青森慈恵会病院 緩和ケア科統括部長 小枝淳一氏
パネリスト 青森慈恵会病院 ホスピス病棟 看護師 横山 望氏
村上病院 内科医 橋川正利氏
まご心 代表取締役 大山由紀子氏
- 参加者 150名

第14回 APHC (2021年) が神戸開催で決定！



第12回アジア・太平洋ホスピス緩和ケア会議 (APHC) が、7月26日から 29日にシンガポールで開催され 1600 名以上の参加がありました。その中で、APHC 設立に貢献された故・日野原重明先生の追悼式が持たれました。また、理事会メンバーの改選が行われ、日本か



ら選出の理事である恒藤 暁氏 (京都大学大学院医学研究科) が任期満了となり、新たに、森 雅紀氏 (聖隷三方原病院) が選出されました。

なお、木澤義之氏 (神戸大学) は任期中です。今回の理事会において、第14回 APHC (2021年) の開催地として神戸市が選ばれました。

2017年度 ホスピス・緩和ケア ボランティア研修会



本年は、宮城県と岩手県の2か所で開催されました。

宮城会場では、マギーズ東京の秋山正子先生が、マギーズセンターの働きをご自身の歩みを語られながら紹介されました。また、穂波の郷クリニックの大石春美先生から実際のケアの様子が紹介されました。

【宮城研修会】

- 日 時：2017年7月20日（木）
13:00～16:30
- 会 場：仙都会館（仙台市）8階 会議室
- 参加者：58名

【岩手研修会】

- 日 時：2017年7月21日（金）
13:00～15:30
- 会 場：一関文化センター（一関市）
4階 会議室
- 参加者：30名

ホスピス・緩和ケアボランティア研修会に参加して

日本病院ボランティア協会 宇野喜代子



仙台会場では、マギーズ東京センター長の秋山正子氏と、緩和ケア支援センターはるかセンター長の秋山正子氏と、緩和ケア支援センター長の秋山正子氏と、緩和ケア支援センター長の秋山正子氏が講演下さいました。秋山正子氏は、がん患者やその家族には様々な心の不安や迷いがある。しかし、外来では十分に聞いてもらうことが難しく、多くの問題を抱え込んでいる。マギーズのコンセプトは「自分を取り戻せるため

の空間やサポートを」です。がん患者やがんに影響を受けるすべての人が、とまどい孤独なとき、気軽に訪れて、安心して話せて、自分の力ととりもどせるサポートがある。がん専門の医療従事者が常駐し、一人ひとりの話を十分によく聞きながら対等な立場で友達のように寄り添い傾聴していると紹介して下さいました。予約せず、時間制限もなく、このような場を利用できることの必要を実感させられました。大石春美氏は、在宅緩和ケアの生活の質を高めるために支援ネットワークを作り、心に

寄り添うケアを大切にしている。ネットワークには80歳以上のボランティアさんの「おっぴんさん倶楽部」や「ほなみ劇団」など様々でユニークな活動があり、患者さんの“希望を叶える”の実現のために様々な手立てを考え、常にチャレンジしていることを紹介して下さいました。「おっぴんさん倶楽部」でご高齢者が頑張っておられることをお聞きし、高齢ボランティアの可能性が広がりました。

一関会場では、岩手県内の病院ボランティアさんによる活動発表と交流会が持たれました。

Whole Person Care ワークショップ コースⅠ、コースⅡが開催されました。

コースⅠ（従来のワークショップ）と、より深く Whole Person Care を学ぶための、コースⅡが8月5日、6日に千里ライフサイエンスセンターにて開催されました。



両日共、多忙な日常をしばし離れ、自らの内心を探りつつ、自己覚知・瞑想・自己ケアをキーワードに癒し人への道を探る学びの時が与えられました。

参加者：コースⅠ 23名、コースⅡ 24名

参加者の声より

- ◎人生を変えるワークショップでした。
- ◎心がとても疲れていたもので、自分を振り返り、いたわる事のできた良い機会となりました。



新たな全人的ケア・医療と教育のパラダイムシフト』
好評発売中 発売元 青海社 2000円（税別）

〈ひとり死〉時代のお葬式とお墓

小谷みどり著

岩波新書 2017.7 発行 780円(税別)



ここ数年、火葬のみのお葬式や、遺骨が引き取られないというケースなど、葬儀やお墓に関して、様々な変化が起きつつある。著者は日本各地の具体的な事例を紹介しながら、高齢化、多死社会を迎えた我々へ、死後を誰に託すかという問いを投げかけている。

“私はこの本で「お葬式やお墓は大事だ」とか、「消滅するのは時代の趨勢で仕方がない」などと言いたかったのではなく、「弔いが無形化していく社会は、私たちにとって幸せなのか」という問題提起をしたかった”と、あとがきに記されている。そして、その備えとしての人と人との関係性の大切さを問いかけている好著である。

新刊・近刊紹介

診療所の窓辺から

小笠原 望著

ナカニシヤ出版 2017.4 発行 1500円(税別)

四万十の地で、診療所と訪問診療に勤しんでおられる小笠原先生と患者さん（というか、友達に近い人々）との、なんともほのぼのとしたやり取りが綴られている。

“思い通りにいかないことも臨床” “私たちの生活のストレスは大したことではないと思うのです。”

いのちに比べたら、そんなことまあいと思えたら楽になります” などなど、味わい深い言葉と、毎回のコラムに添えられている川柳が読むものに不思議な安らぎを与えるのは、小笠原先生が患者さんと正面から向き合う姿勢と、四万十の自然のなせる技ではないかと思う。



ホスピス財団 国際セミナーが、東京・大阪で開催されます。

- ・テーマ：Whole Person Care におけるコミュニケーション力
 - ・講師：Robert Gramling 先生 (米国バーモント大学 緩和医療学部)
 - ・日時：
 - 東京会場 2017年11月25日(土) 13時～18時
 - 大阪会場 11月26日(日) 13時～18時
 - ・定員：各会場 100名(先着順)
- 詳細はホームページをご覧ください。

お知らせコーナー

グリーンケア研修セミナー

- ・実施予定日：2018年1月28日(日)
 - ・場所：龍谷大学 響都ホール交友会館(京都市)
- 詳細は後日、ホームページに掲載いたします。

こんにちは ホスピス

KKR 札幌医療センター

緩和ケア病棟 師長 東海林 愛

KKR 札幌医療センターは昭和 27 年に結核対策として札幌の市街地から離れた平岸のリング園の中に幌南病院として誕生しました。その後、札幌オリンピックを機にリング園は宅地となり、それと伴に増床と診療機能を増やし、平成 18 年に 450 床の KKR 札幌医療センターと改称しました。同時にがん診療の一環として、主治医

体制で緩和ケア病棟が開設されました。地域の急性期総合病院の中にある緩和ケア病棟として「ときに治し、しばしば慰め、つねに緩和する」の理念のもとに、多職種が連携し全人的ケアに努め、日常生活を支援しています。現

在は緩和ケア外来、がん看護外来、がん治療支持チームがあり、外来・病棟においてもチームで共有し患者さんを支えています。訪問診療医や訪問看護ステーションとも連携し、在宅医療のバックベッドとしての役割も担っています。

リング園の名残から中庭にはリングの木があり、秋には真っ赤な顔を患者さんや私達に見せてくれています。当院の ST が発足した「わんこの日」(アニマルセラピー)は愛らしいワンちゃん達が患者さんを笑顔にし、お茶会は宴のようであり、季節を知らせるイベントはスタッフの情熱が感じられます。療養生活の中にも少しでもホッとする時間や、笑顔になれる瞬間を作り出すことを大切にしたいと思えます。



ホスピス財団
2017年度事業進捗状況報告
(2017年4月～2018年3月)

1. ホスピス・緩和ケアに関する多施設共同研究（公募2件）…進行中
2. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究事業（第4次調査・2年目）…進行中
3. 『ホスピス・緩和ケア白書 2018』（研究論文集+データブック）作成・刊行事業…進行中
4. 非がん疾患の終末期医療の実態に関する調査（4年目）…進行中
5. ホスピス・緩和ケアに関する意識調査…進行中
6. 一般病棟や療養型病棟において緩和ケアの提供を進めるための手法の開発…進行中
7. ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー開催事業
・実施日：2017年7月20日（木）（仙台市）参加：58名
2017年7月21日（金）（一関市）参加：30名
8. Whole Person Care ワークショップ
・実施日：コースI 2017年8月5日（土）参加：24名
コースII 2017年8月6日（日）参加：24名
・場所：千里ライフサイエンスセンター（豊中市）
9. グリーフケア研修セミナー開催事業
・実施予定日：2018年1月28日（日）
・場所：龍谷大学 響都ホール交友会館（京都市）
10. 高齢者介護施設等の看取り教育研修…進行中
11. ELNEC-PPC 指導者養成プログラム開催事業
・実施予定日：2017年秋を予定・場所：京都大学
12. 「緩和ケアにおけるソーシャルワークの手引き」の作成…進行中
13. 『これからのとき』『旅立ちのとき』冊子増刷
14. 一般広報活動事業
15. ホスピス・緩和ケアフォーラム開催事業
・実施日：2017年7月30日（日）
・場所：リンクステーションホール青森（青森市）参加 150名
16. 第1回 ホスピス財団国際セミナー開催事業
・実施予定日：東京 2017年11月25日（土）
大阪 2017年11月26日（日）
17. 第2回国際 Whole Person Care 学会への参加
・実施予定日：2017年10月12日～14日（モントリオール）
18. APHN（Asia Pacific Hospice Network）関連事業
第12回 APHC・実施日：2017年7月26日～29日（シンガポール）
19. 日本・韓国・台湾 第2期共同研究事業（3年目）…進行中

（公財）日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団
2016年度（第17期）決算の概要

2016年4月1日から2017年3月31日まで（単位：千円）

科 目	2016年度決算
【経常収益】	
①基本財産運用益	3,978
②受取寄付金	29,440
（内訳） 賛助会費収入	23,800
一般寄付金収入	640
指定寄付金収入	5,000
③雑収益等	2,672
経常収益計（A）	36,090
【経常費用】	
①事業運営費	33,440
（内訳） ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業	8,052
ホスピス・緩和ケア従事者に関する教育事業	8,798
ホスピス・緩和ケアに関する広報事業	9,494
ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業	7,096
②一般管理費	5,860
経常費用計（B）	39,300
当期経常増減額（A－B）	▲3,210

寄付者一覧(2017年3月～2017年8月 順不同、敬称略)

(個人) 島田 恒 前田 隆康
藤田 光寛 西端 春枝
加藤 昌子 大江 里美

新規賛助会員(2017年3月～2017年8月 順不同、敬称略)

(個人) 多田 幸雄 堀 華乃子
松下 倫子 知久 幸子
齊藤 恵津子 竹本 好成
森田 亜紀 大越 猛
柴田 祥宏 岩田 昌美
福智 晃子 木原 歩美

寄付・賛助会員のお願い

私たちの活動は、全て、皆さまからのご寄付と賛助会員の方々のお力に拠っております。どうか私どもの活動の趣旨をご理解いただき、ご寄付・賛助会員のお申し込みを頂けるようお願いいたします。(税額控除の対象になります)

また、「遺贈」による寄付もぜひご一考下さい。当財団は、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」について提携しております。公益法人への遺贈に拠る寄付財産は、原則として相続税の非課税財産となります。

上記ご寄付、賛助会員、遺贈に関するお問い合わせは **06-6375-7255** です。

編集後記

この夏、青森で開催された、ホスピス・緩和ケアフォーラムでの講演を通して、患者さんの要望を一つ一つ丁寧に対応することが、よりよいケアに繋がるということを学んだ。その折、小学校教員である友人が、「子ども達に手をかけてあげれば、あげるほど、彼らは喜びを感じてくれる。しかし、それは、自分にとっては、とても疲れることでもある。」と語っていたことを思い起こした。このジレンマは教員も、医療従事者も同じではないかと思う。そのような中、今回新たに開講された Whole Person Care ワークショップ・コースⅡで、医療従事者が自分自身を知ること、自分自身を受け入れることの重要性が、講義と、演習（瞑想等）を通して示され、ややもすれば“燃え尽き症候群”に陥りやすい医療従事者への適切なアドバイスになったのではと感じた。秋の爽やかな季節、ひと度立ち止まり、自らを省みる時を持つことができればと願いたい。

編集子

